

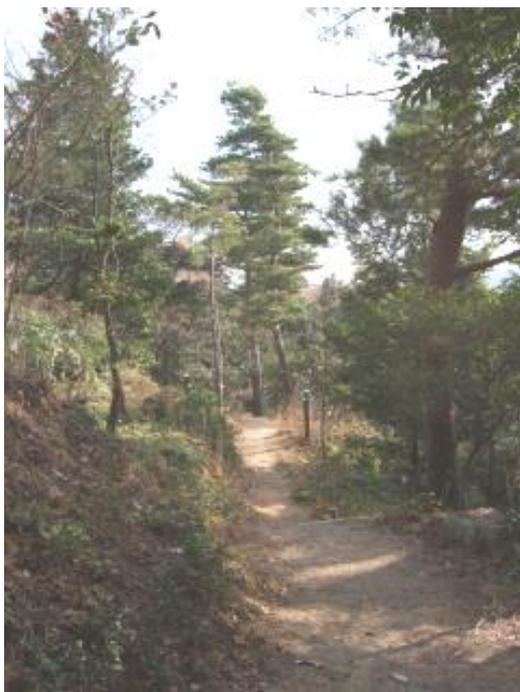
特集「アカマツ林 五ヶ年計画」

アカマツ林は

昔はどこにでも見られたアカマツ林ですが建材としてのアカマツの利用がなくなったこと、燃料革命によって薪炭の利用がなくなり、落ち葉かきや低木などの伐採といった人の手が入らなくなった結果急激に荒廃が進み、アカマツ林は全国的に減少しています。

そうしたなか、油山のアカマツ林は福岡県のレッドデータブックに貴重な植物群落として掲載されています。

しかし、マツノザイセンチュウによる「松枯れ」が依然として猛威を奮っていて、毎年被害が出ている状況で、世代交代に向けた取り組みが喫緊の課題となっています。



D 地区の遊歩道とアカマツ



A 地区の落ち葉かき

これまでの経緯

◆長期保全計画（会の基本的な考え方）

「いつも元気なアカマツ林」として

1. 1本1本が元気な木であること
2. 代々続いていく林であること
3. 会員以外の方への開放

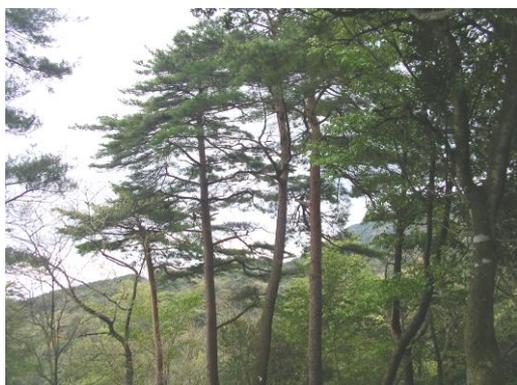
◆2003年度アカマツ林作業計画

1. シダ刈り
すでに出ている実生を踏まないように作業をする。
2. 常緑樹除伐
A地区谷側のルート沿い
森が明るくなることで花をつけるツツジ科のヤマツツジやシャシャンボなどアカマツ林に特徴的な樹種は残す。
3. 落ち葉かき
 - ・9月に1回
 - ・看板の作成
 - ・機会がある場合行う

◆アカマツ林5ヶ年計画(2006年11月)

会でできる作業量、作業で出た材の利用、安全等を考慮して、作業を進め、ある程度の成果は出たが、今後は20年、30年を見据えた計画の立案が必要である。

- ①草刈り、松葉掻きを密に行う
- ②枯れ松は早目に伐倒処理を図る
- ③幼木、成木調査を行い把握する
- ④遊歩道の整備を行う
- ⑤材処理ヤードの設置と補修



B地区の大径木のアカマツ

◆アカマツ林新五ヶ年計画(2014-2018)

(ワークショップにて)

2013年9月29日(日)

テーマ:「いつも元気なアカマツ林」

サブテーマ: 幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり

- ・夢は大きく、マツタケの生える元気なアカマツ林



ガイドンス広場



F地区の実をつけた若木

①全域

広葉樹の除伐、下草刈り、地掻きを実施する。これに伴って変貌する下層植生を観察して、必要に応じて保護していく

②地区別の保全計画

A地区

アカマツ林のシンボルとなる大径木を見せる。

地掻きを行い元気なアカマツを育成し、入口部の広葉樹、灌木類を除伐して大径木の林が見られるようにする。

活動エリアを従来のA,B,Cの3地区の区分から、次ページの図のように新たにA~Fまでの6地区に変更します。

B地区

A地区と同じ、大径木が見られる地区で地掻きを行い元気なアカマツを育成する。

南側の広葉樹を除伐して日照を確保し、実生の育つスペースづくりを行う。

C、D、E、F地区

南斜面は広葉樹の除伐をすすめてアカマツの単林化を図る。併せてアカマツ林の生育段階の連続性が見られるよう幼木の移植、実生の保護、育成を行います。

遊歩道沿いの保存樹(観察木)については、今後再検討する。